

森林やまがた

No.220

2025.11



山形県森林協会は、
「美しい森林
づくり推進国民
運動」を推進し
ています。



目次

やまがたウッド・フェスティバル2025 (第33回林業まつり)が開催されました	2
やまがた森林ノミクス県民会議について	3
令和7年度地域林政アドバイザー認定研修の 全日程が終了 新たに14名を認定!!	4
やまがた緑環境税評価・検証委員会を白鷹町内で 開催しました	5
みどりのページ	
令和7年度緑の募金公募事業について	6
里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金 について	6
緑の募金にご協力いただいた企業・団体のみなさま	7
分収造林地の災害復旧について	8
国有林から	
苗木の植栽から考える「新しい林業」・スギ花粉 発生源対策	9
スタートピックス	
庄内海岸林のマツ枯れ調査の省力化に向けて	10
フォレスト通信 農林大学校・専門職大学 から 未来のフォレスターたち	11
むらやま地域森の感謝祭2025 西川町で開催しました!	12
令和7年度「未来の森林人(もりびと)育成事業 ～真夏の森林楽校～」の開催について	13
「おきたま森の感謝祭2025」を開催しました	13
緑の少年団庄内地区交流研修会	14
第48回全国育樹祭記念行事	
みやぎ2025森林・林業・環境機械展示実演会開催	15
丸太価格の推移・製材品価格の推移	16



(表紙写真: 令和7年10月18日、19日にやまぎん県民ホール
イベント広場で開催された「やまがたウッドフェスティバル
2025(第33回林業まつり)」の開催状況)

やまがたウッド・フェスティバル2025 (第33回林業まつり)が開催されました

やまがたウッド・フェスティバル
2025(第33回山形県林業まつり)
が令和7年10月18日・19日の2日間、
山形市のやまぎん県民ホールイベン
ト広場にて開催されました。



会場の様子

初日は雨の予報でしたが、幸いにも小雨程度にとどまり、2日目も、気温は低めでしたが、雨に降られることなく、天候に恵まれて、秋の恒例イベントを多くの方に楽しんでもいただくことができました。



木製品の販売

出展者による各種ブースでは、きのこの汁の振る舞いや県産きのこ・山菜加工品の展示販売、県産木材を使用した家具や食器、積み木など子ども向け玩具の展示販売が行われ、業務紹介パネルの展示なども実施されました。

このうち、協和木材株式会社のブースでは、木工体験やモルック体験などが行われ、大人から子どもまで多数の方が参加し、幅広い世代が交流する場となりました。



シイタケの詰め放題

鮭川村菌茸生産組合連絡協議会のブースでは、来場者が楽しめるシイタケの詰め放題が行われました。来場者の方が楽しそうに挑戦する姿が見られました。地元産きのこの魅力



協和木材による木工体験

を直接体験してもらう企画としても好評でした。
森林研究研修センターのブースで



木製輪ゴム鉄砲の的当て

は、木製輪ゴム鉄砲の的当てが大盛況で、子どもたちが夢中で遊んでいる様子が見受けられました。また、秋の実りを感じるクリの販売も好調で多くの方に喜んでいただけました。多彩なブースが相まって、会場全体が賑わいを見せました。

今後とも、県民の皆様には森林・林業・木材産業の重要性をご理解いただくとともに、木材の良さや森の恵みを実感していただける取組を実施してまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

〔県森林ノミクス推進課〕

やまがた森林ノミクス県民会議について

◆はじめに

10月20日、山形県庁講堂にて「令和7年度やまがた森林ノミクス県民会議」を開催しました。

この会議は、川上（森林・林業団体等）、川中（木材産業事業者・林工連携関係者）、川下（建築関係、観光関係、環境教育、消費生活等）、行政（国、市町村）・学識経験者など様々な分野の委員によって構成されています。



吉村知事挨拶

◆内容

会議では、吉村知事の挨拶に続き、県から「やまがた森林ノミクス」及び「やまがた緑環境税」の取組みについて報告を行いました。

意見交換では、川上の委員から

「林業現場は、険しい場所が多く、生産性の大幅な向上が困難な状況。高性能林業機械の導入は生産性の向上だけでなく、安全性の向上といった観点からの支援も重要」など。川中の委員からは「木製家具を輸出する際の海外の規制が厳しく、国際的に認証されているFSC認証がないと、輸出できない状況。県産材で作った家具の輸出を拡大するには、FSC認証の森を県内に増やすことが必要」など。川下の委員からは「住宅着工件数が減っているうえに、非住宅の中大規模建築の木質化が進んでいないため、木材需要が減少している。中大規模建築は民間よりも官庁物件が多いので、県で木質化を推進してほしい」など。学生の委員からは「山形県全土の地況・林況情報を航空レーザ測量により作成し、オープンデータとすることで、民間企業や県民がその情報にアクセスでき、適切な作業道の開設や森林整備に役立てられる」など。行政・学識経験者の委員からは「庄内の松くい虫対策については、国や県、関連機関と

の連携を強化し取り組んでいくので、協力をお願いする」、「近年、EBPM（エビデンスに基づく政策形成）の重要性が高まっているが、過去の森林管理に関するデジタルデータが不足しており、EBPMを推進していく上で大きな課題」など様々な視点から意見が寄せられました。



会議の様子

◆おわりに

今後、県では本会議をはじめ多角的な視点からのご意見をいただきながら、「やまがた森林ノミクス」のさらなる加速化に向けて取り組んでまいりますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

〔県森林ノミクス推進課〕

里山林活性化による多面的機能 発揮対策交付金事業のご案内

里山を地域住民の手で元気に！

- ・地域住民が協力して行う里山林の保全活動を支援します（林野庁助成事業）
- ・地元の里山を何とかしたい！という思いのある方、お気軽にご相談ください



公益財団法人 もり
やまがた森林と緑の推進機構

緑化推進部 緑化推進課

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265
TEL 023-688-6633 FAX 023-688-6634
E-mail gcenter@jan.ne.jp

令和7年度地域林政アドバイザー認定研修の全日程が終了 新たに14名を認定!!

◆地域林政アドバイザーとは

多くの市町村では森林・林業行政を支える専任の林務職員が不在で、専門的知見を有する者も不足していることが課題となっています。

さらに森林経営管理制度や林地台帳の整備など市町村の役割が拡大・高度化していることを踏まえ、森林・林業施策全般に関する知識や技術を有し、施策の立案や関係者への指導助言ができる地域林政アドバイザー制度が林野庁により創設され、県では令和2年度より認定研修を実施しています。

◆令和7年度研修

7月24日から計5回にわたり「令和7年度山形県地域林政アドバイザー認定研修」を実施しました。

研修では、地域森林計画・市町村森林整備計画、伐採・造林届出制度、保安林・林地開発許可制度など森林・林業の施策全般に関する基礎的知識のほか、森林GISや高精度なGNSS測量、森林クラウドなど新たなICT技術の活用についても学びました。



スマホを使い高精度測位技術を体験

9月19日には、県森林研究研修センターの試験実習林で現地研修を行いました。現地研修では、天然更新完了基準やスギ人工林の成長と地位判定について学びました。天然更新の完了を確認するための調査方法と天然更新の目安となる高木・亜高木性の広葉樹を同定する実習のほか、スギ人工林の樹高や胸高直径を測定し、材積を算出する標準地調査の実習も行い、造林・伐採の実務について理解を深めました。参加者からは、「たくさんの樹木について丁寧に教

えてもらい、少しは樹木の見分けがつくようになった」などの感想がありました。

10月10日には、森林経営管理法の概要、制度に係る事務の進め方について学び、計15科目の講座の全日程が終了しました。

◆閉講式・全科目修了者の認定

最後の講座終了後の閉講式において、認定証の交付を行いました。本年度は全科目を修了した14名が認定され、これまで本研修により認定された地域林政アドバイザーは81名となりました。

受講者からは、「林業行政について、体系的に学ぶことができて良かった」「令和7年度山形県地域林政



スギ人工林の調査実習



県森林ノミクス推進課 坂本主幹から修了者へ認定証の交付

アドバイザー認定研修に参加させていただき、非常に有意義で貴重な機会だったと思います。国の制度、市町村の事務作業について詳しく知ることができました。仕事をする上で、皆様のサポートができるよう、地域林政アドバイザーとして役目を果たせるよう努めたいと思います」などの感想がありました。

今後、認定者には研修で得た知識を活かして、事業体職員、県・市町村職員としてそれぞれの立場で森林・林業行政や「やまがた森林ノミクス」の推進に協力いただくとともに、地域林政アドバイザーとして活躍されることを期待します。

〔県森林ノミクス推進課〕

やまがた緑環境税評価・検証委員会を白鷹町内で開催しました

◆はじめに

県では、やまがた緑環境税を活用する施策を適正かつ効果的に進めるため、「やまがた緑環境税評価・検証委員会」を設置し、幅広い視点から御意見をいただくとともに、施策効果の評価や検証を行っています。今年度第2回目の会議を、9月3日（水）に置賜地域において開催しました。この会議は、やまがた緑環境税評価・検証委員会運営要領により、公開で実施されています。この日は、森林ノミクス推進課にインターシップで参加していた大学3年生の2名に傍聴していただきました。

◆会議内容

会議では、平成29年度～令和6年度までのやまがた緑環境税の活用事業の取組状況と令和8年度のやまがた緑環境税の見直しに向けた評価・検証についての報告を行いました。

委員からは、「子育て世代等の若年層が木工体験、製材所見学等の一連の流れを体験できるような取組みをしてほしい」、「間伐に対する補助を増やしてほしい」などの要望のほか、「もつとやまがた緑環境税の認知度を上げる取り組みをしてほしい」といった意見もありました。

◆現地視察

会議の後は、白鷹町大字鮎貝字中禅寺平にて鮎貝松ヶ丘教育の森管理会が実施する下草の刈払い等の取組みや、同地で行われた病害虫被害等で活力が低下した里山林の整備を視察しました。また、同町大字高玉地内の森林資源再生事業による再造林の状況や、長井市白兔地内の荒廃のおそれのある森林の間伐状況を視察し、森林整備の状況や県民参加の森づくり活動への思いを実感しました。

◆おわりに

やまがた緑環境税の事業効果や目標達成の状況については、引き続き、情報を発信し、税の必要性をご理解いただけるよう努めてまいります。

〔県みどり自然課〕



白鷹町大字高玉で再造林の状況を確認

大災害に備えて治山施設を整備しよう 森林整備に不可欠な林道を推進しよう

会 長	新 庄支部長	永井 敏行	永井建設(株)	理 事	北村山支部長	大山 圭介	大山建設(株)
副会長	置 賜支部長	那須 正	那須建設(株)	理 事	庄 内支部長	伊藤 大作	(株)伊 藤 組
副会長	西 村 山支部長	佐藤 欣司	大東建設(株)	監 事	東南村山支部	堀川 隆志	羽陽建設(株)
理 事	東南村山支部長	志田 賢一	志田建設(株)	監 事	西 村 山支部	大泉 雅裕	(株)大 泉 組

山形県森林土木建設業協会 ◇事務所:山形市あさひ町16-21

TEL(023)632-3893 FAX(023)632-5454 E-mail: info@y-sinrin.jp

パスコは、森林・林業の課題を先端ICT技術で解決します！

航空レーザ計測

地形・樹高・樹冠を3次元計測し
計画立案、森林管理を支援

森林クラウドシステム

簡単便利なサービス
効率的な情報共有を支援

森林資源解析（AI解析）

樹種判別・森林資源量における
現地確認を省力化

PASCO
Surveying the Earth to Create the Future

株式会社パスコ 山形支店

〒990-0039 山形県山形市香澄町一丁目19番5号
Tel : 023-624-7271 www.pasco.co.jp



みどりのページ

令和7年度緑の募金 公募事業について (木育活動支援事業)

県民の皆様からご協力いただいた「緑の募金」は、森林の整備や身近な緑を増やす活動、木製遊具の設置などに活用されています。今年度の「緑の募金公募事業」については、「花いっぱい支援事業」と「木育活動支援事業」の2つの事業区分で一般から募集を行いました。

木育活動支援事業は、やまがた木育の推進を目的として、県産木材を活用した木製品の購入又は作成と、合わせ行うやまがた木育の普及に関する活動に対し助成しているものです。7月に行われた選考委員会において、今年度の採択事業が決定しましたのでお知らせします。



九里幼稚園(工場を見学する園児)

令和7年度 木育活動支援事業 交付決定一覧

市町村	申請団体	購入品	木育活動
山形市	みんぐるやまがた	もくロック	託児室に木製玩具を導入し利用者に木育普及活動を行う
天童市	天童しぜん幼稚園	もくロック	もくロック購入と製材所の見学
米沢市	九里幼稚園	県産杉材折りたたみテーブル	木製品製作過程の一部見学及び製造工程の一部参加
鶴岡市	湯田川保育園	あつみ杉材使用のテーブル	あつみ杉を使用したテーブルの制作工程見学
鶴岡市	松原保育園	県産木材園児用テーブル	県産木材を使用した園児用テーブルの制作工程見学

このうち、米沢市にある九里幼稚園では、この事業を活用して県産杉材を使用した折りたたみテーブルを制作してもらうことにしました。先日、園児達は制作現場を見学し、杉の香りを感じながら、製造工程の一部を手伝うなどしてきました。このような体験を通じて幼少期から木に触れ合う機会が増え、やまがた木育の更なる推進が期待されます。

里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金について

林野庁の助成事業である「里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金」は、地域住民らが協力して里山林を整備し、その資源を利活用する活動を支援するものです。昨年度までの「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」から名称や要件等が変更されました。やまがた森林と緑の推進機構では、やまがた森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会として活動組織に対する交付金の交付や活動の指導・支援等を担っています。

本交付金の活用事例として、「飯豊町中津川の森人会」の活動をご紹介します。同会は、飯豊町中津川地区に移住した方や地元住民など、13名のメンバーで活動しており、令和3年度の設立当初から本交付金による活動に取り組んでいます。

今年度からの本交付金事業では、森林整備活動に伴う資源活用の取組みが要件化されました。同会では、以前より、発生した材から薪等を生産して積極的に販売・利用してきました。今年度の活動でも、間伐材の製材会社への販売、薪の生産や薪用原木の販売、木工用広葉樹原木の販

売を計画しています。交付金以外の収入を確保し、活動の持続性を高めていくことも期待されます。



薪の生産

令和7年度 活動組織

市町村	活動組織名
尾花沢市	細野の山を愛する会
最上町	最上町山の会
米沢市	夢ある里山保存会
南陽市	内原里山保全を楽しむ会
長井市	西根森づくりの会
白鷹町	山口里山を楽しむ会
飯豊町	飯豊町中津川の森人会
鶴岡市	三瀬里山林保全の会

〔公財〕やまがた森林と緑の推進機構

令和7年度は、左表のとおり県内では8団体が活動しています。地域の里山整備・活用に関心があるという方は、お気軽にご相談ください。

緑の募金にご協力いただいた企業・団体のみなさま

(R7.8.1～R7.9.30)

(やまがた森林と緑の推進機構取扱い分)

(株)アールテック、アイ・エム・マムロ(株)、(株)相田商会、(株)アオバヤ、(有)朝日環境衛生、(株)阿部林業、
(有)新井材木店、荒川興業(株)、有賀建設、(有)アルファ設計、五十嵐工業(株)、(同)イズミ、(株)伊藤造園
土木、(有)伊藤農園、(株)井上産業、(有)入野商会、上野土木建設(株)、上野建設(株)、(株)漆山木材店、
(株)ウンノハウス、(有)エコファーム長井、(株)榎本測量設計事務所、(株)エヌイーエスコポーレーション、
N K Cながいグリーンパワー(株)、(有)遠田林産、(株)王祇建設、大江設計(株)、大ケヤキ中央保育園(株)、
大沢林業(株)、(有)太田木材、(株)オオバ、オールイ環境サービス(株)、岡崎医療(株)、岡崎工業(株)、(株)沖田
木材産業、(株)奥山建設工業所、海藤林産(株)、(株)柿崎工務所、(株)葛麓、加藤総業(株)、笠原建設工業(株)、
金沢清掃(有)、(株)金沢総合コンサルタンツ、(株)金子建設、カムロ運送(株)、軽部林業(株)、(株)環境管理
センター、北日本オイル(株)、北日本特殊イサベラ建設(株)、協和木材(株)新庄工場、工藤石油店、(株)工
藤測量設計、(有)くまがい、黒澤建設工業(株)、協同産業(株)、(有)県南エコサービス、(株)K O E I、コカ・
コーラボトラーズジャパン(株)、(有)小関興業、(有)後藤竹材店、(株)小森マシナリー、(株)コヤマ、(有)最新
清掃興業、(株)ザオー測量設計、(株)寒河江測量設計事務所、(株)佐々木建設、佐竹建設(株)、(株)佐藤組、
(有)佐藤建設、(有)佐藤測量設計事務所、(株)佐藤防災、(有)佐藤林産、(有)三英クラフト、三協コンサルタ
ント(株)、(株)十字電子、城東機械製造(株)、新庄信用金庫、新和設計(株)、(株)菅野測量設計、須川工業(株)
山形工場、(株)菅原工務店、(株)鈴木工務店、スタンレー電気(株)山形工場、(株)スペースパーツ山形、(株)誠
朋建設、ソック(株)、(株)大商金山牧場、第一貨物(株)、(株)大栄、ダイドードリンコ(株)、(株)大和エンジニア、
(同)高清組、(株)高梨製作所、(有)高万商店、(株)高良山形営業所、(有)滝口ベンディング、(株)丹野、鶴岡
ガス(株)、J A 鶴岡、T P R 工業(株)、テルス(株)、J A てんどう、(有)天童クリーン産業、(株)天童木工、
東邦運輸(株)、東北ウッドカッター(株)、東北おひさま発電(株)、(有)東北紙商、(株)東北工材、(株)トーカイ
本社工場、(株)トーホー、(株)内外ビルクリーン、内外緑化(株)、中津川バイオマス(株)、(株)ナカムラ、
(株)中村建設、(株)沼澤工務店、ハイメカ(株)、ヒミヤ石油工機(株)、(株)フジテック、(有)フジハラ自動車、
(有)古澤製材所、ブレンスタッフ(株)、(株)北桜林業、(株)北都測量設計、堀川土建(株)、マックル(株)、(株)松
田木材、(株)丸運ロジスティクス東北、(株)丸江製作所、マルカ林業(株)、(株)マルコウ環境、(株)ミウラ工
業、ミドリオートレザー(株)、(株)ムラヤマ、もがみバイオマス発電(株)、(株)最上世紀、(株)八鍬土建、八
鍬林業、矢口興業(株)、(有)安野測量事務所、八千代観光バス(株)、山形ガス(株)、(株)山形環境エンジニア
リング、山形空港ビル(株)、山形建設運輸、山形県職業能力開発協会、山形県商工会連合会、山形県
信用保証協会、山形県中小企業団体中央会、(一社)山形県土地改良建設協会、山形県土地改良事業
団体(連)、山形県土地改良事業団体(連)親交会、山形国際ホテル、山形酸素(株)米沢営業所、(株)山形
テレビ、山形電子(株)、(株)山形道路、山形富士電機(株)、(株)山形ミートランド、山形緑十字(株)、(株)ヤマ
ムラ、(株)ユアシス、米沢地方森林組合、(株)理研分析センター、(株)渡辺商店、(有)渡部製材所、(株)渡会
電気土木環境事業本部

(敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました

分収造林地の災害復旧について

【はじめに】

やまがた森林と緑の推進機構では、これまで県内の31市町村で民有林人工林の約13%にあたる1万5千6百haの森林造成を行ってきました。

今回は、令和6年度に実施した、木材の利用を目的とした搬出間伐の作業道で発生した7月豪雨による災害と、その後の復旧工事について紹介いたします。

【現地概要】

災害の発生地は、酒田市山元字木落で進められていた森林整備事業の現場です。

間伐…18・59ha
作業道…2,277m
木材搬出…1,648m
伐採した木材は6トン規格のフォワーダに積み込み、伐採現場から約2・0km離れた場所に設置した土場へ作業道を使い運び出しました。

【被害状況】

公道等が通行可能となった後、木材搬出状況の現地確認を行ったところ、7月に発生した豪雨と、その後の長雨によって、集材路が泥濘化し、場所によっては路盤が50cmほど洗掘

され、下流に土砂が流出していることが確認されました。

当該地域の土質が泥濘化しやすいこと、集材路の勾配が急なこと、横断工や側溝の整備が不十分だったことに加え、想定外の豪雨だったことが原因と考えられました。



災害発生時の土場付近の状況

【応急的な対応】

昨年11月の現地確認では状況が深刻で、近隣住民からも心配の声が寄せられました。

このため、林内には運び出しきれない間伐材が残っていましたが、当

初12月末までを工期としていた伐採作業を11月末で中断しました。

泥濘化した集材路の補修と今後の雨に備えた排水施設の整備を至急実施する必要があることから、応急的に集材路の不陸整正、素掘り横断溝、素掘り側溝の整備を行いました。

これから冬期間に入るため、本格的な復旧工事については、春の雪解け後に改めて現地を確認し実施することとしました。

【本格的な復旧工事】

令和7年4月下旬の雪解け後に、現地調査や関係者と打合せを行い、様々な状況を勘案し、梅雨時期は地盤が乾かず作業に適さないことから、工事着手は9月としました。

工事内容は、洗掘された集材路を乾燥した土砂で埋め戻し、碎石を敷くことで路盤を元の高さまで嵩上げし、集材路脇の法面は新たに整形しました。

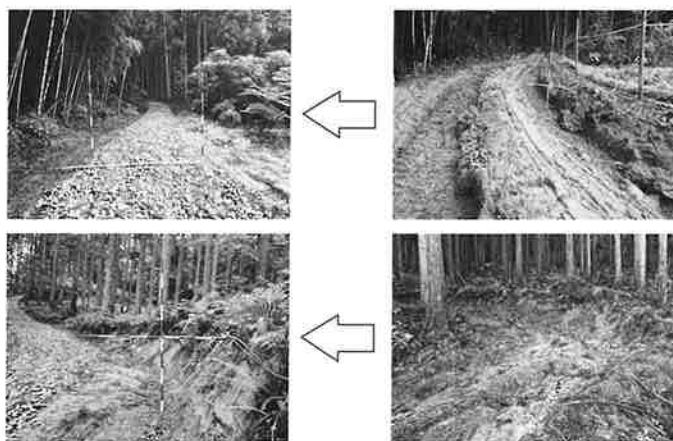
また、土場へ堆積した粘土質の土砂は区域外に撤去するとともに、導水のため新たにU字溝を敷設、碎石を敷き均し復旧しました。

【結びに】

今回は、想定外の大雨による影響もありましたが、集材路の状況や、周辺施設への影響など、事前に現場

の把握や管理を徹底することが必要です。

このたびの災害復旧工事は、事業受注者をはじめ、近隣の方々からの助言もあり、無事完了することができました。これからも分収造林地の整備を通じて、健全な森林の育成と木材生産に積極的に取り組んでまいります。



作業道路復旧後

作業道路復旧前

〔(公財)やまがた森林と緑の推進機構〕



苗木の植栽から考える 「新しい林業」・スギ花粉発生源対策

◆はじめに

山形森林管理署は、山形県中央部から東部に位置する村山地域の7市5町の国有林約7万7千haを管理経営しており、令和5年度は約44ha、令和6年度は約27haの植栽を行いました。今回は植栽する苗木に注目して、当署の取り組みを紹介したいと思います。

◆「新しい林業」に向けた取組

いわゆる「新しい林業」の実現のためには、特定母樹から育成された苗木（特定苗木）の普及が重要な役割を果たすと考えられます。

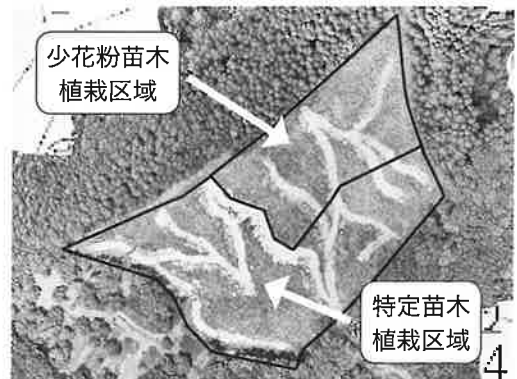
特定母樹とは、成長に係る特性の特に優れた樹木で農林水産大臣が指定します。指定基準は「成長量は、在来系統と比較して1.5倍以上の材積」「材の剛性は、同様の林分の個体の平均値と比較して優れていること」「幹の通直性は、曲がりがないか、曲がりがあっても採材に支障がないもの」「花粉量が一般的なスギ・ヒノキのおおむね半分以下」となっています。

山形県におかれましては、雪害抵

抗性のある系統からの特定母樹の選抜・開発にいち早く取り組まれ、都道府県が選抜した特定母樹の系統数としては全国トップクラスであると承知しており、これらの特定母樹から生産された特定苗木が今年度より出荷されています。

山形県内の国有林においても、県内全森林管理（支）署で今年度より特定苗木の植栽を開始しました。特定苗木の植栽は、東北森林管理局管内の国有林では初めてのことになります。

特定苗木は初期成長の速さが期待できるので、保育作業の削減等にも期待が寄せられています。また、保育作業の削減は単に費用が削減されるだけでなく、重労働である下刈作業の削減にも繋がります。高齢化や就労者の伸び悩みが課題となる林業ですが、過酷な労働条件を少しでも改善して、若年労働者の増加や労働安全にも繋いでいけたらと思います。山形森林管理署で今年度特定苗木の春植えを実施した山形市内の国有林においては試験地を設定し、従来



令和7年度植栽箇所(山形市内国有林)
特定苗木(1.30ha) 少花粉苗木(0.75ha)

の苗木と特定苗木の成長量の比較を行い、今後特定苗木の効果を広報していきたいと考えています。

◆林野庁における花粉発生源対策

令和5年度に行われた花粉症に関する関係閣僚会議では、花粉の「発生源対策」として10年後には花粉の発生源となるスギ人工林を約2割減少させることが示されました。

そこで林野庁は、「スギ花粉発生源対策推進方針」を改正し、令和15年度までに、我が国全体のスギ苗木の年間生産量に占める花粉の少ないスギ苗木の割合を現在の約5割から9割以上に引き上げること等を目標に据え、花粉発生源であるスギ人工林の伐採・植替えを効果的・集中的に実施するため、人口の多い都市部周

辺において「スギ人工林伐採重点区域」を設定することを内容とする技術的助言がなされました。同区域の設定基準は、県庁所在地等から50km圏内にあるまとまったスギ人工林のある森林の区域等となっています。山形県では、山形市をはじめとする9市9町に同区域が設定されました。当署としても、県により同区域に指定された市町の国有林において、県と歩調を合わせる形で花粉の少ないスギ苗木（少花粉スギ、特定苗木等）への植替えを進めていくこととしていきます。少花粉スギは雄花を全く着けないかごくわずかししか着けず、花粉飛散量の多い年でもほとんど花粉を出さない品種で、当署では、令和2年度から植栽しています。

◆おわりに

近年はこのように、「新しい林業」や花粉発生源対策に資する新たな苗木が林木育種センターや都道府県の技術者の皆様の長年にわたる努力により開発され、実際に植栽できるようになりました。

当署としても林木育種に携わった数多くの方々へ感謝しつつ、植栽を進めていきたいと思っています。

〔山形森林管理署〕

庄内海岸林のマツ枯れ調査の省力化に向けて

「ドローンを用いた航空探査」

◆はじめに

庄内海岸のクロマツ林は、日本海から吹き寄せる強い潮風や飛砂から地域の生活や産業を守るため、江戸時代から植栽が進められてきました。南は鶴岡市湯野浜から北の遊佐町吹浦まで約33km、東西は1.5kmから3kmに及び、総面積250haと全国有数の規模を誇ります。行政、関係団体と地域住民の方々の協力と弛まぬ努力によって維持されてきたクロマツ林ですが、現在マツ枯れによる深刻な問題に直面しています。

日本全国で猛威を振るってきたマツ枯れですが、庄内海岸では昭和50年代に被害が確認されて以降、被害量は細かな増減を繰り返していました。しかし、近年の異常な猛暑により、被害が激増し、昨年度は過去最高の75kmを超える被害が発生し、深刻な問題となっています。

◆被害木調査の省力化

被害対策を行うためには、被害量を調査する必要があります。現在は県や市町の職員がマツ林を歩いて、一本一本、被害木の位置、本数、胸高直径等の計測を人力で行っており、

多くの労力と時間を費やし大きな負担になっています。

これらの調査に要する労力と時間を省力化するため、当センターではドローンによる航空探査を活用した調査手法を検討しています。特に、9月時点の調査結果から当年の被害量本数を予測して、マツ枯れ対策予算を確保する必要があるため、上空からスピーディに調査できる航空探査は有効です。精度が高い予測を行うため、枯死木が増える9月から約3か月間（2週間ごと）、マツ枯れが増加していく様子を定点観測（酒田市3か所、遊佐町3か所）して解析を進めています。

◆航空探査の課題

ドローンで撮影したRGB画像をSfMソフトウェアMetashapeでオルソモザイク画像に加工し、GIS上で目視による画像判読をしました。針葉が変色し黄色で枯れ始めた状態を「衰弱」、全体の針葉が赤色になったクロマツを「枯死」として、それぞれの本数をカウントすると、秋から冬にかけて継続して枯損が発生しており、12月には、9月

時点の被害本数の約3倍の被害本数になっていました。

これまでの調査を通して、10月まではつる植物によって被害木が見えにくくなることや、11月は広葉樹の紅葉とクロマツの被害木の見分けがつきにくいことなどがあることが分かりました。

また、現在は目視で判読を行っています。将来的にはAI化を行うため、大量の画像データを収集して実用化を目指していきます。

◆おわりに

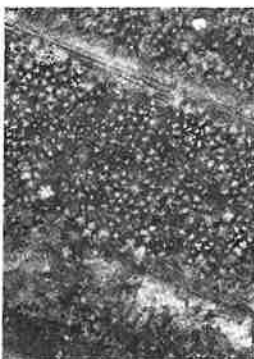
航空探査による被害量調査では、マツ枯れ被害だけでなく、ナラ枯れやクマ剥ぎ被害の調査にも活用していきたいと考えていますので、ご協力を宜しく願います。

〔森林研究研修センター〕

R 6 9月撮影



R 7 4月撮影



マツ枯れ被害の推移

ドローンで撮影したRGB画像



SfMソフトウェア“Metashape”でオルソモザイク画像に加工



〈撮影設定〉

撮影高度：75.9m
解像度：3.51cm/px
サイドラップ：80%
オーバーラップ：90

◆ 附属農林大学 林業経営学科

実りの秋を迎え、2年生は卒論調査も就職活動も佳境を迎えます。その中で今回は本校を会場に9月13日に初めて開催された卒論「JLC(日本伐木チャンピオンシップ)の魅力伝える競技体験会」の状況について報告させていただきます。

◇ 選手は本校卒業生4人と2年生3名、1年生1名の計8名です。

最初に庄内総合支庁森林整備課の尾形俊成氏から「JLCの魅力について」講義していただき、また、株式会社木山の工藤健一氏から競技のデモをしていただきました。その後、



丸太合わせ切り競技を行う学生



表彰式の後で記念撮影

合わせ輪切り競技(傾いた丸太を正確に切る技術を競う)、簡易伐倒競技(目標への正確な伐倒技術を競う)を行いました。参加者は「競技は楽しく、また、チェーンソーのコントロール技術やブレーキ操作など安全作業への意識づけは現場に役立つ」との感想でした。結果は以下の通り。

優勝 高橋幸太氏(結城林業) 準優勝 菅拓真氏(最上広域森林組合)、第3位 岸陽杜氏(農林大2年生)

〔附属農林大学〕

◆ 専門職大学 森林業経営学科

近年、地球温暖化や資源の枯渇が深刻化する中で、持続可能な資源の利用が求められています。その中でも、森林から得られる木材は古くから人間社会に不可欠な資源として利用されてきました。建築や家具といった生活基盤の整備だけでなく、近年では再生可能エネルギーや新素材としての利用も進んでいます。本学科では2年次前期に「木質科学概論」を開講し、木材に関する組織構造、材質、物性などの基礎を学びます。木材は数種の細胞から構成されており、そのほとんどが原形質がない細胞壁だけになった死んだ細胞からできていること、その細胞壁の密度はどの樹種も変わらず、木材の密度は細胞壁と空隙の割合で決まること、樹幹内の細胞の長さや細胞壁内構造に応じて、同じ樹木内の木材でも強度性能などが大きく変化することなど、1年次で木材生産に関わった学生にも新鮮な学びとなっています。さらに2年次後期には「木材利活用論」を受講し、日本や世界における木材利用の現況、バイオマス資源としての活用事例、木質材料や加工技術、木材流通などについて学びます。

木材利用は環境保全、経済発展、社会文化の継承といった多面的な意義があります。持続可能な森林管理と組み合わせ、木材を積極的に活用することは、気候変動や資源問題の解決に不可欠です。本学科では、循環型社会の構築に向けた木材利用の基礎を学んでいます。

また、2年次からの臨地実務実習先として製材業および家具製造業の事業体にご協力いただき、一部の学生は具体的な木材利用を体感しています。このように本学科は森林管理とともに森林資源利活用までカバーし、トータルの森林業分野で活躍できる様々な人材を育成しています。

〔東北農林専門職大学〕



臨地実務実習での製材作業の様子

むらやま地域森の感謝祭2025 西川町で開催しました！

◆はじめに

村山総合支庁では、村山地域のみどり豊かな自然の恩恵に感謝しながら、県民参加による森づくりを進めていくことを目的とし、「むらやま地域森の感謝祭」を開催しています。今年度は西川町での開催となりました。

◆コロナ禍が明けて

令和7年10月2日（木）西川町立西川小学校において開催しました。「むらやま地域森の感謝祭」はコロナ禍の時期には規模縮小を余儀なくされたところですが、昨年度からは多くの方々と一緒に活動を行うことができるようになり、今年度も地域の方々と植樹を行いました。ともに森づくりに汗を流し、森づくり活動を盛り上げる契機となりました。

◆式典、記念植樹について

式典では、岡崎村山総合支庁長の開会のあいさつ、菅野西川町長の歓迎の言葉のあと、間沢下堀共同造林組合（代表 日塔篤夫氏・西川町）、月山やまちから研究会（代表 土田憲也氏・西川町）、五十嵐幸一氏（尾花沢市）の村山地域森林・林業功労

者表彰、緑の少年団代表児童へのリーダー旗引継ぎや、西川町立西川小学校への西山スギ材で製作した机、ベンチの贈呈などを行いました。

式典の後、代表記念植樹が行われました。西川町の木がブナであることから、仲間の樹種であるミズナラとクヌギを植樹しました。これらはどんぐりが実る樹種であり、西川小学校緑の少年団の皆様が、木の实を使った工作や観察会などができるように選びました。その後、参加者の植樹活動として、来賓、功労者、緑の少年団の皆様が共に、西川小学校のビオトープ周辺に6本の広葉樹を植栽しました。



村山地域森林・林業功労者表彰

◆多様な広葉樹を植栽

西川小学校のビオトープ周辺に、溪畔林を構成する広葉樹を中心に植栽しました。例えばカツラは落葉期に甘い匂いを漂わせ、トチノキはとちもちの材料になる大きな実をつけます。エドヒガンとエゴノキは、樹冠いっぱい花が咲くので、移ろう季節を感じやすい樹木です。また、すでに植えられている樹木へも、元気に育ってくれるよう施肥を行うと共に樹名板を設置し、その木の名前が分かるようにしました。感謝祭での多様な広葉樹の植樹が、生物多様性を豊かにすることや地域の景観の向上など、森林の多面的機能の発揮



代表者記念植樹

に寄与することを知ってもらえる機会になればと願っております。

◆緑の少年団活動も開催

感謝祭終了後は、村山地域緑の少年団交流研修会を開催しました。「コマづくり」「ネイチャービンゴ」の2つのメニューを行い、初めて会う仲間と西川町の自然を満喫し、交流が深まりました。



村山地域緑の少年団交流研修会 記念撮影

◆おわりに

一般参加者を迎えて開催した感謝祭は、地域の方々を中心に、約100名による森づくり活動となりました。これからも引き続き県民の皆様とともに広く森づくり活動を推進してまいります。

〔村山総合支庁森林整備課〕

令和7年度「未来の森林人（もりびと）育成事業」 「真夏の森林楽校」の開催について

◆はじめに

最上総合支庁では、最上地域の豊かな緑を守り育む意識を醸成するために、森を守り・育て・暮らしに活かす幅広い森づくり活動を実施できる人材を育成するため、やまがた緑環境税による「もがみ遊学の森活動推進事業」の一環として、中学生以上の若い世代を対象とした森林・林業に関心を持つきっかけとなる体験学習会を開催しました。

◆開催内容

- ・開催日 令和7年7月28日（月）
- ・場所 協和木材株式会社新庄工場及び東北農林専門職大
学（新庄市内）
- ・参加者 東北農林専門職大学森林
業経営学科2年生 9名

【第一部 現場見学】

現場見学では、大型製材工場で生産される住宅用構造材の製造工程などについて話を聞



現場見学の様子

き、実際にオートメーション化された製造ラインの見学を行いました。参加者からは、原木集荷や生産体制など、初めて学ぶ製材品について積極的に質問がありました。

【第二部 木育体験】

木育体験では、県産のブナ材を使用したオリジナルのストラップ作りを行いました。参加者は、自分の手で木を削り形にするこ
とで、改めて木材という素材が有する魅力と可能性を感じているようでした。



木育体験後の記念撮影

◆おわりに

今後も若い世代が森林・林業の現場見学や木育体験を通して、森林の大切さや林業の重要性などについて理解を深めるとともに、このような体験学習会がきっかけとなり、将来は最上地域の森林人（もりびと）として活躍されることを期待しています。

〔最上総合支庁森林整備課〕

「おきたま森の感謝祭2025」 を開催しました

◆感謝祭の概要

置賜総合支庁では、令和7年9月27日（土）に、山形県飯豊少年自然の家（飯豊町）において、「豊かな緑 使い、育て 循環の輪」をテーマに「おきたま森の感謝祭2025」を開催しました。飯豊町内での開催は平成30年以来7年ぶり、本会場では初めての開催となります。当日は来賓や緑の少年団など約170人が参加しました。

◆開催内容

感謝祭では、開催地の飯豊町長の挨拶に始まり、森づくりリレー旗の伝達、置賜地区の緑化功労者、及び



式典風景（緑の少年団紹介）

標語・ポスター原画コンクール最優秀賞の表彰を行いました。その後、森づくり活動として、野生動物と共生を図る緩衝帯整備として下草刈りを行いました。

活動終了後は、西置賜で採れた山の幸を使った山菜汁と、飯豊町の木であるモミジの苗木等のプレゼントを行いました。森づくり活動で汗を流した後に振舞われた山菜汁は、多くの子供からお代わりをされ、大変好評でした。

◆おわりに

当日は、朝から秋晴れの空が広がる心地よい天気の中、多くの方に森づくり活動を体験して頂くことができました。この感謝祭をきっかけに、置賜地域に森づくりの輪が広がることを期待します。

〔置賜総合支庁森林整備課〕



森づくり活動状況

緑の少年団庄内地区交流研修会

◇はじめに

令和7年10月4日、庄内地区の緑の少年団が一堂に会し、「緑の少年団庄内地区交流研修会」が金峰少年自然の家を会場に開催されました。

本研修会は、地域ごとに活動する団員が互いに交流を深め、自然体験を通して環境や森林に対する理解をより深めることを目的として毎年実施しているものです。今年も各地区合わせて14人の団員が参加し、2班に分かれて協力し合いながら1日を過ごしました。

1 午前中の活動について

午前の活動は、まず「アイスブレイク」から始まりました。最初は少し緊張していた子どもたちも、ゲーム形式の活動を通してすぐに打ち解け、笑顔が広がっていきました。自己紹介や簡単なレクリエーションを通じてお互いの名前を覚え、班毎に協力する雰囲気を整ったところで、次のプログラムへと進みました。

その後、金峰山に班毎で入り「グリーンアドベンチャー」を実施しました。コース上には植物や動物に関

するクイズが用意されており、子ども達は班で力を合わせながら挑戦しました。葉の形や木の実の特徴を観察して答える問題や、動物の生態に関するクイズなどに取り組むことで、自然に親しみながら知識を深めることができました。班員同士で意見を出し合いながら問題を解決する姿はとも頼もしく、楽しさの中にも学びが詰まった時間となりました。

2 午後の活動について

午後からは、金峰少年自然の家の職員の指導のもと、「竹割体験」に取り組みました。最初に職員から、放置竹林が環境に与える影響や整備の必要性について説明を受けました。竹が増えすぎると周囲の森林の植生を圧迫し、生物多様性にも悪影響が及ぶこと、また整備を行うことで里山の景観や生態系が守られることなどを学び、子どもたちは真剣な表情で耳を傾けていました。

学習の後は、実際に竹を割る作業を体験しました。初めてのノコギリやナタの扱いに戸惑いながらも、次第に上手にできるようになり、達成

感に満ちた表情を浮かべる姿が印象的でした。割り出した竹は竹炭の材料となり、環境に優しい資源として再利用できることを知ること、循環型の暮らしや資源の有効活用について考えるきっかけとなりました。

最後には、竹炭をお土産として一人ひとりに配布しました。自分が関わった竹が炭として形になることに子どもたちは大きな喜びを感じ、手にした竹炭を大切に持ち帰る姿が見られました。

◇おわりに

本研修会を通じて、子どもたちは



竹割の方法を聞く児童

自然の中で仲間と協力する楽しさを知り、環境を守る大切さについても理解を深めることができました。

来年度もまた本研修会を実施する予定です。今回の経験をもとにさらに内容を充実させ、子ども達がより多くの学びと感動を得られるように準備を進めていきます。

緑の少年団の活動が、次代を担う子ども達に自然の大切さを伝え、環境を守る心を育むものとなるよう、今後も継続して取組んでまいります。

〔庄内総合支庁森林整備課〕



金峰山展望台から集合写真

第48回全国育樹祭記念行事 みやぎ2025森林・林業・環境機械展示実演会開催

第48回全国育樹祭の記念行事として「みやぎ2025森林・林業・環境機械展示実演会」が10月5日、6日の2日間、宮城県石巻市の仙台塩釜港の特設会場で開催の予定でしたが、5日の深夜に降った雨により会場が冠水し、6日の開催は突然中止となつてしまいました。会場は所により水浸しの場所もありましたが、雨もあがり、中止とはいえそれぞれのブースで実演や説明が行われておりました。会場で取材したいいくつかのトピックスを紹介します。

◆大型物流ドローン

中国DJI社製の運搬用ドローン DJI FL YCART 30 のデモンストレーション飛行がおこなわれていました。このドローンは最大で40kgの荷物を運ぶことができ、林業用には苗木などの資材運搬に大きな力を発揮することができ、運搬用ドローンは我々が普段見ている調査用のドローンと比較してその大きさが目を引きます。ミス日本みどりの大使の佐塚こころさんがドローンと記念撮影をしておりました。（ネット情報によれば価格は約250万円です）



ミス日本みどりの大使とドローン

◆再造林の機械化

出展機械の中心は、プロセス、ハーベスタなど伐採系機械ですが、今年は伐根処理用のマルチャーや樹木粉碎機などの造林用機械が多く展示されました。山形県では再造林率は88%（令和5年度）ですが、全国的にはこのところ3〜4割で推移しており、主伐後の再造林が課題となっています。再造林の加速化のためには省力・低コストの技術が不可欠で、高性能林業機械の導入が必須です。展示会でもイタリア MDB 社



レンタルのニッケン開発の地拵えレーキ



トラクター用のマルチャー

製のラジコン草刈り機 LV-800PRO やスペイン TMC-CANCELA のトラクターや油圧シヤベル用のアタッチメントマルチャーが展示されておりましたが、いずれも導入には負担



イワフジ工業のフェラーバケットグラップル

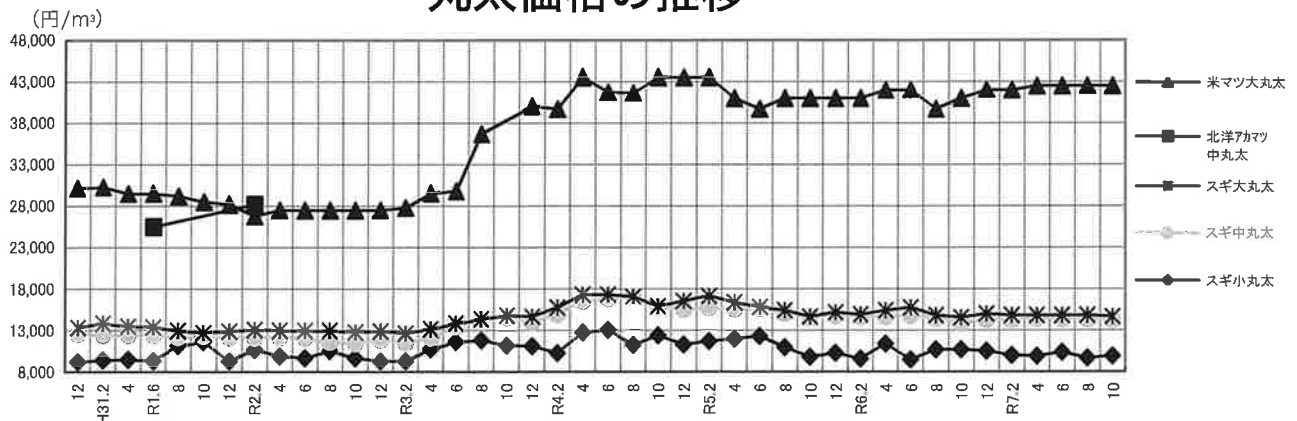
の大きいものです。レンタルのニッケンのブースにニッケンで開発した地拵えレーキが展示されておりましたが、これはグラップルのアタッチメントで挟んで使うため着脱が簡単で価格的にも使いやすく、今回何件か引き合いがあったそうです。

◆イワフジ工業の新機種

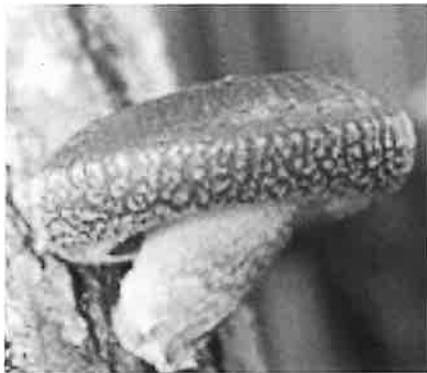
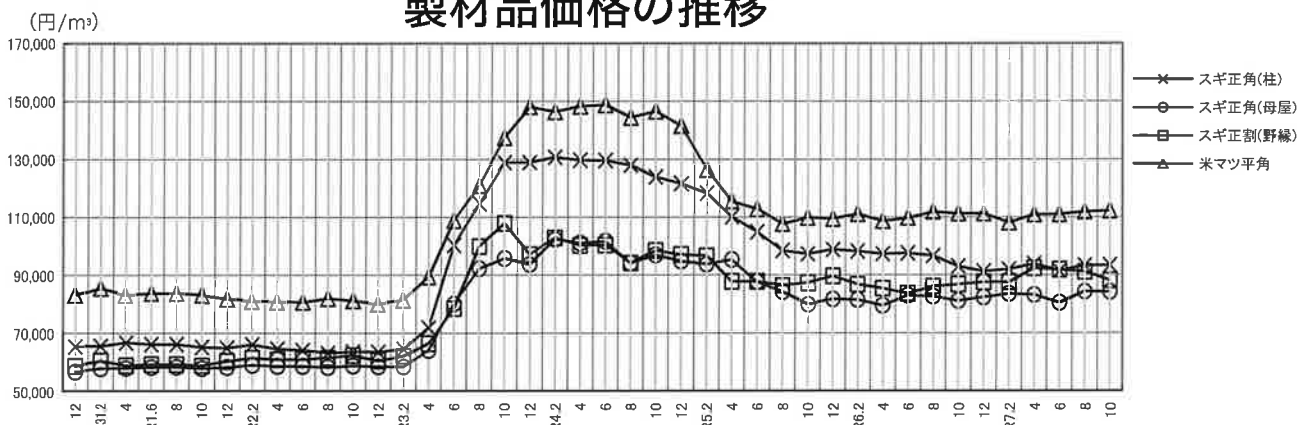
高性能林業機械のメーカーは西日本を本拠とする会社が多い中で、東北で頑張っているイワフジ工業の新機種を紹介します。現在開発中の『CFB-90S』フェラーバケットグラップルで、掘削、転圧、伐倒、玉切り、グラップル作業を1台でこなす路網作設用オールインワンアタッチメントが展示されておりました。来年の春に販売の予定です。

〔山形県森林協会〕

丸太価格の推移



製材品価格の推移



「山菜・きのこ」を食べて健康生活！
きのこは低カロリーで栄養豊富な健康食品です。

旬の贅沢 やまがたの山菜・きのこ

山形県山菜・きのこ振興会

〒990-2339 山形市成沢西4-9-32 ☎023-688-8100

ふるさとの森を活かし、次世代まで続く健康的な住生活を目指しています。



株式会社 沖田木材産業

代表取締役 沖田 洋元

〒999-2231 山形県南陽市二色根472番地の4
tel 0238-40-3055 fax 0238-40-3057

e-mail: okitamzs@ms3.omn.ne.jp URL: <https://www.e-house.co.jp/okita-mokuzai/>